

WWL・三菱みらい育成財団 探究フィールドワークを実施しました

11月8日（水）（一部9日（木）まで）に、高校1・2年生の探究班171チームが、探究フィールドワークを実施しました。それぞれの探究テーマに基づき、自分たちで開拓した協働先で知見を深めました。

「人にも環境にも優しい石鹸とは」を探究している班は、「ワトキンス」という肌にやさしく水を使わない石鹸を販売している企業「entre vida 福岡」を訪問し、お店の方へのインタビューを通して、環境と消費の関係や成分分析の必要性などを学びました。

「漂着ごみ」の探究班は対馬を訪れ、漂着ごみの削減に向けた活動を行っているNPO「対馬CAPP」の方と協働しました。漂着ごみが集積する地区を調査し、漂着プラスチックごみの再利用についてお話をいただき、今後の探究への決意を新たにしました。その他の班も、長崎市内を中心に様々な場所で実施しました。



（↑水を使わない石鹸についてインタビュー）



（↑対馬の漂着ごみについての現地調査）

三菱重工長崎造船所による特別講演・工場見学を実施しました

探究フィールドワークで「三菱重工長崎造船所」を訪問した班は、石瀬史朗フェローアドバイザー（前・長崎造船所長）様による、特別講演を拝聴しました。「持続可能社会の実現に向けた発電部門の取組み」と題し、世界の人口やエネルギー消費量が増加傾向にある状況、なかでも太陽光発電の増加率が突出していること、再生可能エネルギーとの共生の必要性と三菱重工が取り組んでいるカーボンニュートラルについて、高度で深い学びを得る貴重なお話をいただきました。さらに、工場見学をバスツアーで行い、知見を高めました。

以下、生徒の感想です。

「今回、三菱重工様の講演会を受講し、自分の考えの至らないような最先端の発電技術に触れたことで、持続可能な社会の実現に対する自分の考察を一新するきっかけになりました。特に再生可能エネルギーを一度水素に変換する取り組みは、保存性の確保に留まらず、送電による電気損失がないことから、町から離れた洋上や山間部での大規模発電の可能性や水素自動車の需要を生み出すものではないかと想像でき、夢が広がるプロジェクトだと思いました。非常に学びの多い講演で、受けられたことを大変嬉しく感じました。」

「ターコイズ水素を製造するラインを開発する理由、バイオマスは脱炭素に貢献するののかという質問に丁寧に分かりやすく教えて貰いかつ、面白くて夢のある話をして下さりありがとうございました。この講演で得た知識を基にしてこれからの研究に活かしていきます。今回、この講演をして下さりありがとうございました。」

「今回三菱重工さんの話を聞いて今まで知らなかったことや、自分たちの探究に活かせることをたくさん知ることが出来ました。今回一番心に残っているのはCO₂の回収方法についてです。また水素やアンモニアの活用方法についての詳しい話も聞くことができ貴重な体験になりました。本当にありがとうございました。」

大きな成長を得た生徒たちは、探究をさらに深めていきます。お世話になった皆様、この度は本当にありがとうございました。



（↑三菱重工特別講演の様子）